

すだち

The Tokushima University Library Bulletin

徳島大学附属図書館報 No. 52 1995. 9

目 次

巻頭記事

- 情報の運命ー館長就任にあたってー …… 1
 思いつくままー分館長就任にあたってー 2
 Warick 大学の思い出
 学術雑誌共同利用のこと …… 4
 常三島キャンパス図書館利用事情
 ー資料の集中化に関連してー …… 5

トピックス

- 平成6年度学術講演会 …… 6
 新入生向けガイダンス (本館) …… 6
 図書館利用アンケート調査 (分館) …… 7
 First Search 無料体験 …… 7

ガイダンス

- OPAC 利用法 …… 8

資料情報

- Audio Visual
 おすすめの一本 (本館)
 ワーグナーの楽劇「ジークフリート」 11
 利用のすすめ (分館) …… 12
 学生希望図書の中から
 純文学より出でし“怪獣”
 「発光妖精とモスラ」 …… 13
 本学教官著作寄贈図書一覧 …… 14

報 告

- CD-ROM ネットワークサービスの一年 14

図書館日誌

- 附属図書館運営委員会 …… 16
 人事往来 …… 16



情 報 の 運 命

ー館長就任にあたってー

附属図書館長 青山吉隆

国際会議などの長期出張の後、久しぶりに研究室にくると、机の上には郵便物が小さな山になっている。その日の最初の仕事は、この山の中から必要な情報だけを取り出し、残りを燃えるごみと燃えない

ごみに仕分けることである。洪水のように大量の情報が毎日やってくるが、開封せずにごみ袋に放り込む情報もかなり多く、地球のパルプ資源が浪費されている。どうしても必要な情報は極めてわずかであ

り、それを選別するためかなりの時間とエネルギーを消耗している。忙しさにかまけてこの作業を怠ると、山はどんどん成長し、やがて身動きとれなくなる。しかもどんなに忙しくてもこの作業だけは、誰かに頼むというわけにはいかない。この厳しい定員削減の時代に、郵便物を集配ポストから運んで、きちんと机の上に整理してくれる人がいることだけでも大いに感謝しなければならない。

一方、附属図書館にある図書714,142冊、雑誌14,797種類、その他膨大なCD、LD、資料、新聞などはすべてかなりの時間と労力をかけて選択した情報であり、無駄はない。これらのすべては各教官、図書選定委員、図書館員がその専門知識と見識に基づいて厳選されたより抜きの貴重な情報である。つまり情報選別の作業を図書館が無料で組織的、効率的に代行しているわけで、個人宛に届く玉石混合の情報に比べて図書館の情報は格段に質が良い。この拙文も含めて、価値のない他の大部分の情報には、ごみとして焼却されるか、あるいはせいぜい暖房エネルギーかリサイクル資源として短い一生を終える運命が待っている。したがって、図書館にあるすべての情報は、人類の文明誕生以降の度重なる選別競争を生きながらえてきた勝者なのであり、人類の貴重な知的資源である。これらの資源には、充実した保存、有効な利活用を要求するだけの権利がある。

われわれはこの要求にどれだけ応えているだろうか。大学附属図書館には図書を保存し、学習を支援

し、研究を支援する3つの機能が備えられなければならない。しかしながら、徳島大学附属図書館はこれまでの関係者のご努力にもかかわらず、これら3つの機能にまだ課題が残されていると言わざるを得ない。保存機能の充実のためには、情報を選択する効果的な体制、情報を保存する十分な空間と経費、情報を収集する十分な資料・運営費などが必要である。また学習支援機能については、特に、近年急速に増加しつつある留学生、社会人などの学習を支援するために、外国語図書の充実、電子情報メディアや開館時間の延長などのサービスの向上が必要である。研究支援機能については、学内LANの積極的な活用を推進する必要がある。また知的資源の有効活用のためには集中管理あるいは連携が不可欠であるが、学術雑誌などの各研究室への分置は、この効率的利用体制の確立の障害になっており、特に常三島キャンパスにおいて課題がある。いずれも早急な対策が必要であるが、文部省の理解が必要な対策と学内のコンセンサスが形成されれば可能な対策とがある。

書物には著者の人格が見え、書齋にはその人の知性がにじむ。43年の歴史をもつ徳島大学附属図書館には、過去から現在までの徳島大学人すべての知性が反映されていると見るべきだろう。徳島大学の知性にふさわしい附属図書館でありたい。図書館のあり方について、多くの方々により強い関心をもっていただくことが学内コンセンサス形成の第一歩である。



思 い つ く ま ま

一分館長就任にあたって

附属図書館蔵本分館長 上村 修三郎

子供の頃、雑誌といえば少年クラブと冒険王であった。おもしろくなかったので、講談社の単行本がでるのを待ちかねるようにして本屋にゆき、猿飛佐助や霧隠才蔵に夢中になった。東映時代劇の華やかなりし頃であった。忍者にあこがれ、ふろしきで覆

面し、ずっしりとした手応えのある脇差しを腰に、チャンバラごっこにうつつをぬかした。

1984年、関係者のご厚意で文部省短期在外研究にいかせていただいた。テキサスでフランス系カナダ人の家庭に招かれることがあって、行ってみると、

息子が黒装束にきりりと鉢巻をしめ、六角棒をもって現れたではないか。結局、その子と忍者ごっこをする羽目になったのだが……。当時、アメリカではカラオケ、えりまきトカゲ、そしてNINJYAがはやっていたそうだ。4年後、再びテキサスを訪れることになった。坊やおみやげにとおもちゃ屋に寄り、飾りのついた刀を探した。何軒まわっても見つからなかった。……刀がない！何をして遊んでいるのだろう。

近頃、子供の集まるところはパソコンソフトの売場と本屋のようだ。書架に群がる人の後ろにまわってみる。？……。いや、実に多様な雑誌がでている。立ち読みするにもどれに手を出してよいかわからない。だまされるのも氾濫している学術雑誌と同じだ。

源氏物語が、枕草子が、また日本史や世界史が漫画となっている。娘もその手の本を数冊もっていた。受験勉強のために買ったらしい。物語のあらすじや、時代の流れや登場人物を大まかにつかむのに便利で、漫画の方が記憶に残っているという。こんな時代に育った子供たちが今、図書館を利用していると考えなければならない。まさか、論文を漫画にするわけにもいかないが……。教科書なら可能だろう。ある研究課題の歴史的流れが漫画ティックなCDになっていてもおかしくはない。

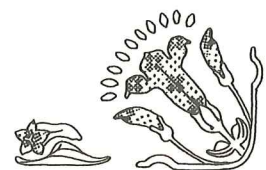
いまだにそうだが、およそ文学作品と呼ばれるものとは縁遠かった。中学時代はもっぱら水滸伝や三国志演義を借り出した。高校時代の図書館はいつも満員だった。誰かが受験勉強を、誰かは恋を語っていたのだろう。ちょぼひげの館長に美味しいお茶を

入れてもらったり、膠を溶かして製本することを教えていただいた。教養時代は本など読む間がなく、ようやく専門課程で図書館へ通うようになった。MicrobiologyやWhiteのBiochemistryがまだ本箱に残っている。再試用にと図書館で借り、読んでいるうちにどうしても欲しくなって仕入れたものだ。コピー技術の進んだ現代では笑われそうだが。持つ悦びはあった。

Thoma's Oral Pathologyは図書館にある好きな本の一冊だった。その後の版は編者が代わり、引用文献がめったやたらと多く面白くもないが、当時のものには著者のphilosophyが溢れていた。先日、分館の書庫にThomaがあるのを見つけて嬉しくなった。この分館の本数は少ないが、古書、古雑誌の中に妙な掘り出し物がある。

この広い世界には自分と発想を同じくするものが必ずいる。やられたと思うこともしばしばである。今年W.C.RöntgenがX線を発見して100年にあたる。ものの本によれば、Röntgenより先にX線を発見していた研究者が何人もいるといわれる。しかし大切なことは早く発見することではなく、その性質を見極め、ある事象の中に早く位置づけることだと思われる。雑誌が今日、見つからなかったからといって、激怒するほどのものでもない。

分館も閲覧室がずいぶん広くなった。学生さんも以前よりはゆったりしているようだ。何も知らないものが分館長に指名され大いに戸惑っている。誰でもが気持ちよく利用できる図書館に！みなさんのご支援、ご助力、をお願いするしだいです。



Warick 大学の思い出と

学術雑誌共同利用のこと

総合科学部教授 石原 徹

在外研究員などで少し長い間外国の大学に滞在すると、文献収集等でどうしてもその大学の図書館にお世話になる。もう14、5年も前になるが英国のWarick 大学に10カ月足らず滞在したことがある。ご存じの方も多くないと思うが、Birmingham の南東30キロ程の所にある英国の新構想大学の一つで、そこの数学教室はカタストロフ理論の応用で有名な Zeeman 教授が創設した大変特色のあるものである。国際研究集会を2年に1度必ず開き、そのために数学教室が30人程度泊まれる宿泊施設を持っている。当時、「Oxford や Cambrige には、なるほど功なり名を遂げた偉い先生がいる。しかし、Warick の方が active である。」という人もいた。

数学教室はスタッフ30名程で、博士課程の大学院生も同数程度いた。数学教室の中央に200平米程度の図書室があったが、この図書室の数学学術雑誌が大変貧弱で、せいぜい30タイトル程度しかなかった。外国からの訪問客の世話係のシールズ嬢に雑誌はこれだけしかないのかと訪ねると、大半は図書館本館にあるという。数学教室や生物学教室等はこちらの岡にあり、図書館本館を始めとして、大学の主な施設は向こうの岡にある。その間には、深い谷があり、向こうの岡へ行くには一度谷の底へ降りてまた登る2キロ余りの道を歩かなければならない。この道は急坂で自転車も車も使えず、徒歩で行くしかない。仕方なく、ふうふういいながら図書館本館を訪れた。

伝統ある欧米の大学図書館に比べると見劣りするが、出来て15年前後の新興大学のものとしては、なかなか立派な図書館であり、1フロワーが徳島大学図書館の4倍はあったらどうか。各種学術雑誌も一同に集められて1フロワーを占めていた。各分野ごとに分類整理されていて、開架式で展示され、大変利用しやすかった。ただ、片道20分の坂道を降り登り

して通わなくてはならず、これには閉口した。何で全部数学教室に備え付けないのかと、何人かの数学教室のスタッフに訪ねたところ、基本文献・情報の共有制、公開制の重要性から原則的にはみんな納得をしているようであった。

私も二週間に1度は本館通いをした。坂道も運動不足を補ってくれ、道の両側には季節に応じて、時に野生の草花など咲き乱れて目を楽しませてくれ、慣れると図書館通いもそれなりに楽しいものになった。

さて我が徳島大学でも学術雑誌の共同利用を進める方向で検討がされているようである。

結論を先に言えば、私は基本的には、共同利用が出来やすい方向で整備すべきであると思う。研究はそれぞれの分野で深化させることがもちろん大切であるが、いろいろの分野の交流が重要であることも今更言うまでもない。

常三島地区のほとんどの学術雑誌は教室等研究・教育単位のみ利用を考えて管理されているのではないだろうか。他の分野の者ももちろん利用させては頂ける。

しかし、これはご好意で利用させて頂く感が強く、システムとして、共同で利用しましょうと言うことにはなっていないと思う。常三島地区でも文献の学内、学外の相互利用は年々多くなっているという。しかし、この地区では、学内に文献があることが分かるのがつくりするということも多い。学内にあると、外部へは依頼できず、自分で探さないといけませんが、これがなかなか大変なのである。こういうこともあり、また大学として、広い範囲の人々に基本文献、基本情報というものを、提供し共同利用をはかる責任があると思う。しかし、共同利用体制を取るに当たっても考えて欲しいことがある。共同利用体制と言うことで、本館に雑誌を集めたとする。

それが本当に利用しやすいような形で管理提供できるか図書館の責任は大変大きいと思う。元々その雑誌を貴重な講座予算を割いて購入している学科、教室の人々の利用が90%以上のはずである。それを一

番利用している者が不便にならないような配慮をお願いしたい。運動不足を補う程ではないが、遠く離れるのだから、それだけ不便になる。それを補うものがなければならない。

常三島キャンパス図書館利用事情

—資料の集中化に関連して—

工学部教授 松田佳子

図書館について日頃感じていることを書いてみないかとの図書館委員からの依頼に戸惑いを感じながらお応えしようと思ったのは、ひょっとしたら、自分と同じ思いをしている方々がいらっしゃるかも知れないからである。私は医学部後に酵素科学研究センターの教官として蔵本キャンパスで二十数年間仕事をしてきましたが、平成元年4月から常三島キャンパスで工学部生物工学科の教官として新設学科の創生期を学生及び少人数のスタッフと共に理想の大学学科をめざして夢中で過ごしてきました。いろいろな問題を抱えつつも、生物工学科は本年度第8期生70名を迎えて、学部学生234名、大学院工学研究科生物工学専攻30名、博士後期課程の院生5名の大所帯になりました。学内外の多くの方々のご支援とご協力によりカリキュラムも充実して参りましたし、研究設備、教育環境も少しずつ改善されて参りました。そして何よりも嬉しいことは生物工学科の学生の名前が教官と共に国際的に一流の学術雑誌に掲載された論文の著者としてぞくぞくと登場し始めたこととあります。大学の使命が教育と研究活動にあるならば、本学で教育を受けた若い人材がどんどん研究者の仲間入りをし、新分野で活躍することは教育活動の成果であります。そこで研究者集団を構成する教官と大学院生が本格的に研究に取り組むにあたり、大学の研究環境を検証してみると、幾つかの問題点がクローズアップされてきます。1)プロジェクトを作り出し、推進させる事のできる指導者の確保、2)意欲のある研究者及び大学院生の育成、3)

研究費の確保、4)研究設備及び研究室の確保、5)研究を支援し、活性化するための組織の整備、が急務であります。これらの項目はいずれも21世紀をめざしての研究活動に不可欠のものであります。1)から4)までの項目は今までも論じられ、様々の試みがされましたが、5)の項目についてはそこまで手が回らないのが現状ではないでしょうか。ここで図書館について考えてみますと上記の4)と5)に当たると考えられます。すなわち図書館機能の充実なくしては国際化時代に独創性のある研究はできないのであります。そこで常三島の図書館本館と私たちの利用の実態と問題点をみてみました。

生物工学科では生命科学、生命工学の研究が行われている訳であるが、それは生物学、医学、工学、の学際的領域の学問であり、非常に広い範囲の基礎から応用までの様々の情報を集めて新分野を開拓することが求められている。従って常三島地区に本格的な研究者レベルの図書館が必要であります。井上前図書館長が本誌49号に資料の集中化について書いておられましたが、蔵本地区ではかなり進んでいるようですが本館ではその後殆ど改善されていないのが現状だと思えます。独り生物工学科のみならず、現在では学際領域の研究が盛んになり、重要に成って参りました。図書館にさえ行けば、何時でも、誰でも、自由に、どんな専門書でもみることができるようですが本館ではその後殆ど改善されていないのが現状だと思えます。もし図書館にみたい書物があれば教官や大学院生が図書館に足を運ぶようになるでしょう。外国人留学生

も図書館を利用するほうが個別に図書を借り歩くよりも効率的であります。そして教育機関としての大学で図書館のレベルをあげることの効用の一つに学部学生が教官や大学院生、外国人留学生が真剣に研究用図書や学術雑誌を調べている様子を日常的に目にするにより真摯な姿勢で学問をする事を暗黙のうちに理解すると期待できます。工学部では学部学生は4年生になって研究室に配属されるまで殆ど個別の教官と接触する機会がないために教官の研究者としての側面を知らないままです。図書館は学問の府である大学の雰囲気や大学に入ったばかり

の学生に教える場所であるべきではないでしょうか。図書館の利用の仕方を教えても、本来利用しているべき教官や大学院生の姿の殆どみられない図書館では寂しい限りであります。工学部に大学院博士後期課程が設置されて5年経ち博士論文を執筆する大学院生が常時、自由に利用できるレベルの高い図書館が常三島キャンパスに必要であります。図書館運営委員会でも雑誌の共同利用を推進する意向とのことです。図書館本館が一般教養の図書館から大学院生及び研究者に無くてはならない図書館に高度化されることを祈っています。

トピックス

平成6年度学術講演会

平成7年3月3日、「徳島大学学術情報に関する講演会」を開催しました。平成6年度で4回目となりますが、今回は、光華女子大学の谷口敏夫助教授に、「ハイパーライブラリーシステムと大学図書館の将来像」と題して講演していただきました。谷口氏は、大学図書館での勤務経験もあり、最近では、京都大学を中心に開発され、昨年度京都で開催（4年に1回）のITU（国際電気通信連合）総会でも紹介された電子図書館システム「Ariadne」にも深く関わっておられます。

谷口氏は、このような経験を生かして、システムの開発に用いられたハイパーテキスト技術について紹介され、電子図書館を実現する上でそれが有効なものであること、これによってハイパーライブラリーシステムともいえるべき図書館が実現できることを説明されました。このあと、これからの大学図書館がどうなっていくのかについて触れ、自身まだ模索中であることわりながら、図書館を情報流通のシステムとして捉えるだけでなく、建築空間としての図書館は、社会の文化的シンボルとして、また、知識の宝庫であるとともに、人々がその中で思索し知

恵を生み出していく「館（やかた）」として、これからも存続することが必要であると考えている、と強調されました。

講演会には、学内の教官や職員をはじめ、近隣の大学や高専からも多数の方が参加されました。

新入生向けガイダンス（本館）

5月18日(木)～7月11日(火)の間、共通教育課程の新入生（夜間主を含む）を対象として、学部や学科ごとに22回にわたり、館内の各室・資料・設備を実地に紹介し、図書館がどのようなサービスをしているか、学生が図書館で何が出来るかその概略について説明しました。

入学式から日がたっていたせいも、参加者の内にはすでに図書館を利用した人も多数有り、視聴覚資料には、どのようなものがありますかとか利用の方法、文庫本はどこにありますか、等活発な質疑がありました。学生が特に興味を持ったのは、LDを機器にセットし放映中の状態にしていたためか視聴覚室のようでした。新入生1,317人中、参加者は265人でした。来年度のガイダンスについては、時期・方法について検討中です。

図書館利用アンケート調査（分館）

蔵本分館（医歯薬系図書館）では、昨年度学術雑誌の利用、文献複写、情報検索等のサービスについて、いくつかの改革を行いました。これらについて利用者の方々の意見を聴くため、さる6月19日から30日まで、蔵本地区内の教官と院生を対象にアンケート調査を実施しました。

アンケート調査票の配布、回収状況は下記のとおりです。

	配布部数	回収部数	回収率
教官	498	271	54.4
院生	315	153	48.6
身分不明	—	22	—
計	813	446	54.9

とくに学術雑誌について、本年より館内利用を原則とし、貸出はオーバーナイトローン（一夜貸出）に限定したことで、実施後いろいろご意見をいただきました。今回の調査では、教官集計で以下のような結果となり、雑誌の館内利用について過半数の方の支持を得ていることが明らかになりました。

	最新着	新着	バックナンバー	合計	率
貸出しない	59	31	16	106	14
一夜貸出	154	147	119	420	54
当日貸出	34	31	23	88	11
数日間貸出	16	50	99	165	21

（雑誌の貸出方式について、教官集計）

なお、調査結果の詳細な報告は次号で行う予定です。

First Search 無料体験

学内 LAN=TUNES が敷設されて、1年余りが経過しました。このような環境の変化に対応するかのように、利用者の皆様がご自分で検索できる簡単なオンラインデータベースサービスの一つとして、First Searchが日本でも利用できるようになりました。

図書館では、業者の協力により、無料体験サービスを7月20日まで実施しました。

6月20日には、講師を招き、本館・分館でデモンストレーションを実施しました。参加いただいた10名の利用者の方々から活発なご質問をいただきました。

First Searchとは、米国のOCLC（Online Computer Library Center Inc.）が提供する各種オンライン・データベースサービスのことです。First Searchは、これまでのオンラインサービスと違って利用時間やデータ出力件数に比例した料金体系ではなく、検索回数対象となっているため、ゆっくりと資料検索を行ったり、内容を一覧することが一つの特徴となっています。

興味のある方は、常三島地区については学術情報係、蔵本地区については分館情報調査係までご連絡ください。



OPAC 利 用 法

図書館では、総合情報処理センターの機器更新に合わせて、新しいOPAC (Online Public Access Catalog) サービスを4月から開始しました。

OPACは、図書館で受け入れた資料を利用者の皆様が自分で検索することができるオンライン目録のことです。

図書館内では、利用者の皆様に使いやすいグラフィックユーザーインターフェースを採用し、マウスの操作で簡単に検索できるシステムでサービスしています。

又、研究室等のLAN接続端末から、学内LAN (TUNES) 経由で、TELNETにより検索できるシステムも稼働しています。

それでは、実際の検索例を見てみましょう。

① 図書館内 OPAC

本館、分館とも2階の情報検索コーナーに、OPAC端末があります。通常、スクリーンは暗くなっていて、「マウスをクリックしてください」というメッセージが流れています。

マウスのボタンを押してみてください。すると下の画面が現れるはずですよ。



図 1

画面に現れる矢印がマウスのポインターです。この矢印をマウスを机上で動かすことによって、資料問い合わせのところまで、移動します。そして、クリック (ボタンを押すこと) してください。

すると、下のような画面が現れます。

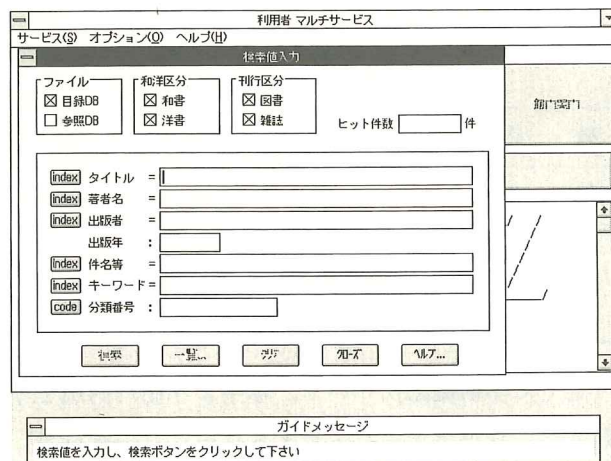


図 2

これが、検索初期画面となります。

ここで、自分の探す資料のタイトル、著者名等、検索の鍵となる言葉を入力します。

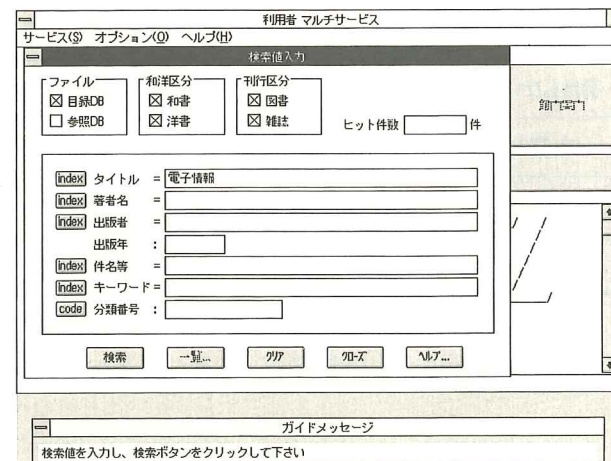


図 3

タイトルが「電子情報……」という図書を探すため、タイトル入力欄に電子情報と入力します。

そして、「検索」をクリックしてください。

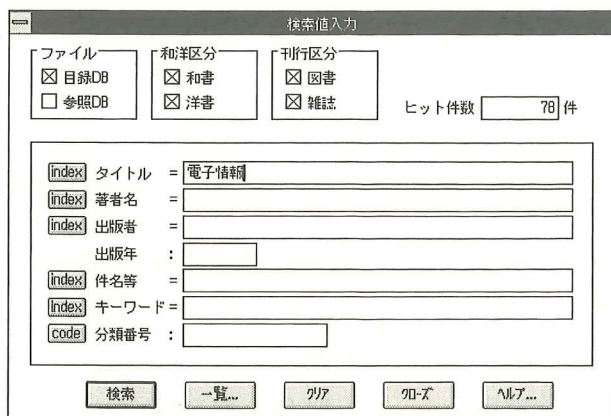


図 4

70件とヒット件数が表示されています。これでは多すぎるので、さらに著者名に「越田」と入力して、再び検索してみます。

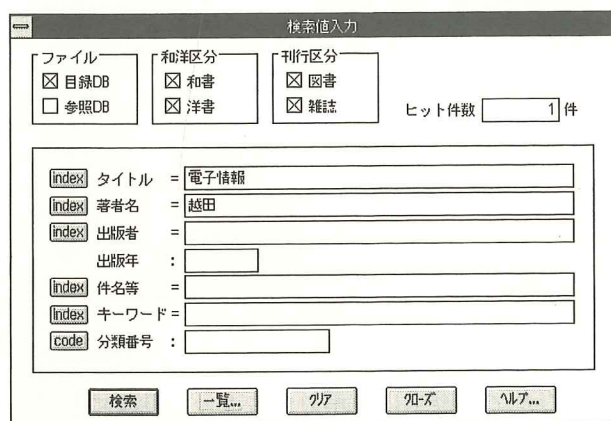


図 5

ヒット件数が「1件」と表示されました。どのような資料がヒットしたのか見てみます。「一覧」をクリックします。

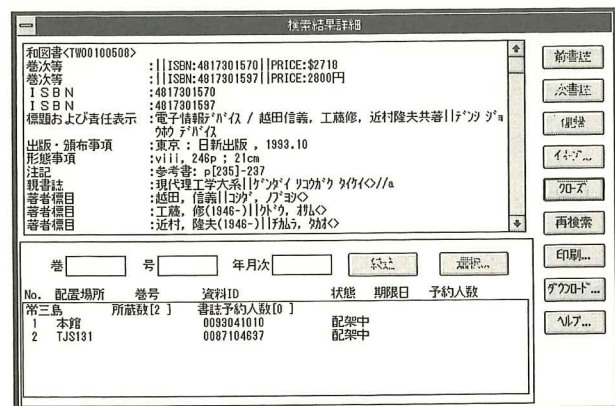


図 6

本館の行をクリックし、「選択」をクリックし、さらに「所蔵詳細」をクリックすると、次の画面になります。

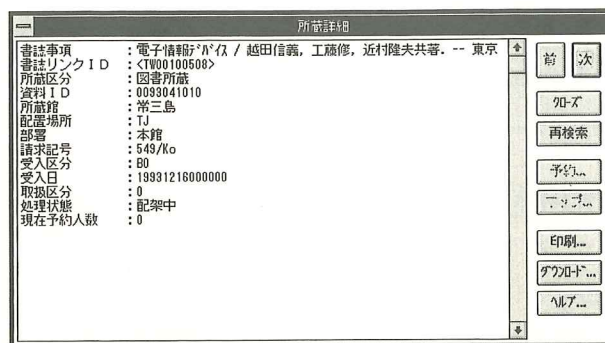


図 7

請求記号「549/Ko」によって、この図書が本館のどこにあるかがわかります。4XX~7XX まで、2階閲覧室にありますから、順番に並んでいる書架を見ていけば見つかるはずです。

② TELNET 版 OPAC

今度は、研究室等の TUNES 接続済パソコンから利用可能な TELNET 版 OPAC を見てみましょう。

telnet opac.tokushima-u.ac.jp

と入力します。すると、次のようなメッセージが返ってきます。

SunOS UNIX (void)

login:

そこで、「opac」と入力してリターンします。すると、OPACの初期メニューに到達します。

Last login: Thu Jul 6 10:55:54 from wump SunOS
Release 4.1.4-JLE 1.1.4 (GTS - GENERIC)

1: Thu May 25 14:28:45 JST 1995

ILIS/X-WR へようこそ

OPAC サブシステムは現在以下のサービスを利用できます。

— 資料問い合わせサービス

≪サービスメニュー≫

番号または記号を選択して下さい。

1. 資料問い合わせ

h. ヘルプ (>のときいつでも入力可)

e. 終了

>

以下で一連の流れを表示します。アンダーラインの部分が、利用者の入力事項です。

>1
 資料問い合わせ (1. 簡易検索 2. コマンド検索 e. 終了)

>1
 検索条件新規 (1. タイトル 2. 著者名 3. 出版者 4. 件名等 0. その他 e. 終了) 複数可

>1,2
 検索キーを入力してください。(改行のみ検索条件削除)

タイトル
 : 電子情報

著者名
 : 越田

検索対象は全資料です。よろしいですか。
 検索対象 (改行. 変更なし 1. 全資料 2. 図書 3. 雑誌 0. その他 e. 終了)

> (改行)
 全資料を検索中…
 1件ヒットしました。
 ヒットあり (改行. 検索結果表示 1. 再検索 2. 検索条件追加 0. その他 e. 終了)

> (改行)
 #1
 和図書<TW00100508>

[巻次等] || ISBN : 4817301570
 || PRICE : \$2718

[巻次等] || ISBN : 4817301597
 || PRICE : 2800円

[ISBN] 4817301570
 [ISBN] 4817301597

[標題および責任表示] 電子情報デバイス/越田信義, 工藤修, 近村隆夫共著 || デンシジョウハウデバイス

[出版・頒布事項] 東京: 日新出版, 1993. 10

[形態事項] viii, 246p; 21cm

[注記] 参考書: p [235] -237

[親書誌] 現代理工学大系 || ゲンダイリ

コウガクタイケイ<>//a

[著者標目] 越田, 信義 || コシダ, ノブヨシ<>

[著者標目] 工藤, 修(1946-) || クドウ, オサム<>

[著者標目] 近村, 隆夫(1946-) || チカムラ, タカオ<>

[分類標目] NDC : 549

[件名標目等] FREE : 電子部品//K

[選択項目]

1. 常三島 貸出予約 0人
 本館 0093041010 549/Ko 配架中
 TJS131 0087104637 319/Fu 配架中

検索結果詳細 (e. 終了)

> e
 <<サービスメニュー>>
 番号または記号を選択して下さい。

1. 資料問い合わせ
 h. ヘルプ (>のときいつでも入力可)
 e. 終了

> e

どなたでも簡単に操作できることを目標にしていますが、まだまだ改善の余地があるものと思います。皆様のご意見をお寄せください。

終わりに、サービス時間等を以下に記します。

図書館内 OPAC : 図書館開館時間内
 TELNET 版 OPAC :

- ・利用対象者……………学内者のみ
- ・サービス時間帯……………09 : 00 ~ 22 : 00
 12 : 00 ~ 22 : 00 (金曜日)
- ・システム休止日……………日, 祝日, 年末年始

連絡先:
 附属図書館学術情報係 (Tel : 56-7589, ext : 6151)

- ・ opac@lib.tokushima-u.ac.jp
- ・ TUNES ニュースグループ

なお、従来のホスト名 access は, opac に変更します。access は, 10月以降使用できなくなります。

(学術情報係)

Audio Visual おすすめの一本 (本館)

ワーグナーの楽劇『ジークフリート』

総合科学部教授 石川 栄 作



本学附属図書館(本館)所蔵のレーザー・ディスク(LD)の中から何かお薦めのオペラ作品を紹介してほしい旨の依頼を受け、早速LDのコレクションを見せていただいた。レコードやCDに較べると、LDはまだ十分とは言えないが、ワーグナーのオペラがある程度整っているのには驚いた。ワーグナー畢生の大作『ニーベルングの指環』四部作はもちろん揃っている。『指環』四部作は現在総合科学部の授業(欧米言語文化研究)で講読中なので、この四部作を推薦することにした。ただ紙幅の都合上、今回は四部作の中でも特に『ジークフリート』に限って紹介したい。

本学附属図書館(本館)に所蔵されている楽劇『ジークフリート』(コレクション番号LD389~391)は、1990年4月メトロポリタン歌劇場においてライブ収録されたもので、指揮はジェイムズ・レヴァイン、演出はオットー・シェンク。主人公ジークフリート役はジークフリート・イエルザレム(テノー

ル)、ブリュンヒルデ役はヒルデガスト・ペーレンス(ソプラノ)である。これまでNHKテレビ(衛星放送)でも二度ほど放送されたことがあるので、ご存じの方もおられることだろう。私は二度ともビデオ録画し、折りにふれて鑑賞している作品である。

楽劇『ジークフリート』のあらすじを簡単に紹介すれば、鍛冶屋ミーメに拾われて成長したジークフリートは、父の形見の名剣ノットゥングを鍛え直す(第一幕)と、ミーメに唆されて竜退治に出かける。竜は洞穴の中でとぐろを巻いて、黄金を護っているのである。ジークフリートは竜を倒し、その血が舌に触れると、鳥の声が分かるようになり、鳥の声でミーメが黄金の指環を一人占めにしようと企んでいたことを知ると、ジークフリートはミーメを斬り倒してしまう(第二幕)。黄金から作られた指環を獲得したジークフリートは、さらに鳥の声に従って、岩山の上で長いこと眠っていたブリュンヒルデを目覚めさせると、二人の間には愛が芽生え、二人は愛の喜びを歌い上げる(第三幕)。

グリム童話の『いばら姫』を思い起こさせるような物語であるが、圧巻は何と言っても第三幕のブリュンヒルデの目覚めの場面から、二人が宿命的な愛によって結びつけられる最終場面まで(LD第5面)である。特にこのメトロポリタンは、例えばパトリス・シェロー演出の抽象的なバイロイト音楽祭などとは大いに異なっており、ワーグナーの原作に忠実に演出し、『指環』本来の姿を取り戻した点で注目されており、それだけにまた貴重なものでもある。上記の最終場面一つをとってみても、舞台背景はとても色鮮やかで、メトロポリタンならではの最高技術によって「絵本」のような美しさで我々の目を存分に楽

しませてくれる。是非一度鑑賞してみてください。LDは館外貸出できないが、三階の視聴覚室で気楽に鑑賞することができる。舞台装置の美しさとともに、

最終場面のジークフリートとブリュンヒルデの宿命的な愛の調べはいつまでも皆さんの心にも響き続けることであろう。



Audio Visual 利用のすすめ (分館)

蔵本地区は医学部、歯学部、薬学部等、生命科学系の部局が集中しているところです。蔵本分館の蔵書構成も生命科学系が中心で、視聴覚 (Audio Visual) 資料も同様です。

視聴覚資料は、ビデオ (Uマチック, VHS), カセット, スライドなどを所蔵していますが、利用の9割はVHSです。平成6年度の利用状況は以下のとおりです。

教職員	25名	84本
学 生	18名	68本
その他	3名	4本

また、利用の多かったものは以下のとおりです。

JRIA ビデオシリーズ (VHS)

1. アイソトープとは (20分)
2. 人体への影響 (20分)
3. 安全取扱の基礎 (20分)
4. 安全取扱の実際 (23分)
5. 医療施設における安全取扱 (25分)

医学情報の達人 (VHS)

1. 生命を支える情報サービス (18分)
2. 医学研究のための文献の探し方 (20分)
3. 医学文献データベース (20分)
4. 誰にでもできる学会プレゼンテーション (17分)

心電図の読み方 (VHS)

- ・心電図の基礎 (30分)
- ・心電図パターンの読み方
 1. 心筋の異常 (30分)
 2. 不整脈 PART.1 (30分)
 3. 不整脈 PART.2 (30分)

驚異の小宇宙：人体 (VHS)

1. 生命誕生 (50分)

国試ポリクリシミュレーションシリーズ(I) (VHS)

5. 高血圧と動脈硬化 (15分)
8. 癌を遠ざけよう (16分)

最近では、各部局や研究室にビデオ装置を備え付けていて、図書館での利用が少なくなる傾向にあります。今後図書館では、LD (レーザーディスク) などの新しいメディアも受入れていきたいと考えております。昨年度の増改築工事で視聴覚室も改装され、利用環境も快適になりましたので、是非ご利用下さい。

(分館情報サービス係)



学生希望図書の中から

純文学より出でし“怪獣”『発光妖精とモスラ』

情報サービス係 日高 奈三江



「発光妖精とモスラ」。このタイトルを見た時、モスラに関する研究書だと思いこんだ。しかも、「モスラ」という怪獣を誕生させるに至った人間の心性に、「妖精」のイメージがどのように影響しているのか」について学術的に考察しているのかとまで考えた。深読みだった。

この本の内容は、映画「モスラ」の原作、脚本の第一稿そして決定稿を一挙掲載したものである。何だ単なるシナリオか、と思ったが、読んでいくうちに、この本が「たかが怪獣映画のシナリオ」とは侮れないものであることがわかった。

まずこの原作。3人の作家によるリレー小説（週刊朝日・別冊1961年1月号掲載）という形式もさることながら、作者がいずれも純文学者である、ということには注目に値すると思う。“思う”と書くのは、私にモスラに関する予備知識がまるでないからで、モスラ通の人には周知の事実かも知れないからだ。しかし、昔の怪獣映画を好む友人に確認したところ、こういう原作の存在については全く知らなかったとのことだったので、このまま話をすすめる。

それぞれの作者について軽くふれると、筆頭の中村真一郎は、フランス小説の方法論を取り入れた長編ロマンの作家とされている人物である。作家・文芸評論家・詩人・戯曲家と多くの肩書きをもち、1953年に「夏」という作品で谷崎潤一郎賞を受賞してい

る他、多くの受賞歴がある。福永武彦は、若いころから中村真一郎と親交があり、1971年には「死の島」で日本文学大賞を受賞した小説家である。堀田善衛は、学生時代に中村真一郎と同じ同人誌に参加し、詩人として出発した。その後は小説家・文芸評論家として活躍し、1961年には「広場の孤独」で芥川賞を受賞して政治青年の人気を集めた（以上のデータは「現代日本人名録'94」「〔現代日本〕朝日人物事典」を参考にした）。これらの人物を起用したのは、あの「ゴジラ」のプロデューサーの田中友幸氏で、その意図は、「ただのお子様向けの映画では満足できず、同時に一人前の大人も面白がらせる作品にする」ことであつたと、後書きに書かれている。

さて、ではその内容はどうかということ、これが深い。辛口である。安保闘争や原水爆に対する世論が、ストーリーの中のバックグラウンドとして見え隠れし、時代性を感じさせる。またマスコミが自らの使命を誇りに思い、時には強引とも思えるやり方で任務を遂行しようとする姿は、現代のマスコミの状況と比べるとおもしろい。今マスコミにこのようなプライドがあるだろうか。“昔は良かった”などとは言わないが、「モスラ」が作られた当時の、稚拙ではあるが情熱にあふれ、何事にも真剣に取り組んでいた人々のことを思うとうらやましくなる。

この原作においては、プロデューサーの意図は、見事達成されたと思われる。この本を読んだ後、興味を覚えて初めて映画「モスラ」を見た。映画の方は、果たして原作の意図をどこまで再現できたのかさだかではないが、1961年当時としては、特撮その他の点で素晴らしいものだったのだろう。私の想像ではもっと美しい映画になる筈だったが、それは好みの問題であるし。私としては、モスラファンの人にも、モスラを見たことのない人にも、新たな想像の余地のあるこの本を一読することをお薦めしたい。

本学教官著作寄贈図書一覧 (平成7年2月～7月受入分)

下記の著作が寄贈され、図書館資料として利用に供しています。寄贈者の方々に改めてお礼を申し上げます。

本 館

著 者 名	書 名	発 行 所	寄 贈 者
河野 清 他	兵庫県南部地震淡路島震災調査報告書	徳島大学工学部	工学部
漆原 綏	稲作農業と米価問題	全国農業会議所	漆原 綏
村上 理一 他	材料強度学入門	西日本法規出版	村上 理一
平井 松午 他	徳島の地理	徳島地理学会	平井 松午

蔵本分館

著 者 名	書 名	発 行 所	寄 贈 者
高杉 益充 監修	薬剤識別コード事典 平成7年改訂版	医薬ジャーナル社	医学部附属病院薬剤部 高杉 益充
高杉 益充 編	薬物性視覚障害	医薬ジャーナル社	医学部附属病院薬剤部 高杉 益充
高杉 益充 編	新・薬剤副作用 軽減化の工夫	医薬ジャーナル社	医学部附属病院薬剤部 高杉 益充
医学部ウィルス学講座	内田孝宏教授退官記念業績集	医学部 ウィルス学講座	医学部ウィルス学講座

報 告

CD-ROM ネットワークサービスの一年

分館情報調査係長 近藤英子

研究者にとって、研究の目的を達成するための基本的要素としての文献検索は、従来、偶然に手にした文献（雑誌や図書）の引用文献であったり、二次資料（索引誌、抄録誌、目次速報誌、総説誌等）であったりします。それによって原著論文や図書を手にすることになります。かつて、文献検索は、冊子体の二次資料を研究テーマに併せて大まかな主題から一つ一つ調べていました。研究者にとっては、大変な労力であったことでしょう。ところが、外部のデータベースを使ってON-LINE検索をするようになりました。多額の利用料金と引換に手軽に検索

することができました。しかしながら、図書館員を介して行うため満足できる結果が得られたかどうか疑問であったと思います。それが、収納場所をとらないコンパクトな媒体を通して、簡単な操作で、必要としている文献を即座に検索できるようになりました。それがCD-ROMでした。CD-ROMサービスを開始したのが、平成2年の10月でした。約4年後の平成6年7月、TUNES(徳島大学キャンパス情報ネットワーク)を経由して、学内のどのキャンパスからも、24時間いつでもアクセスできるようになりました。当初は、PC98シリーズとその互換機、

IBM-PC とその互換機を使用してサービスをしていましたが、11月には、Macintosh からも検索できるようになりました。研究者や学生にとって研究入門としての文献検索はゲーム感覚で楽しく試行錯誤しながら必要な文献を検索できるのです。そこで、この1年間どれだけの人を利用されたかをグラフでお見せしましょう。

図1 学部別登録端末数

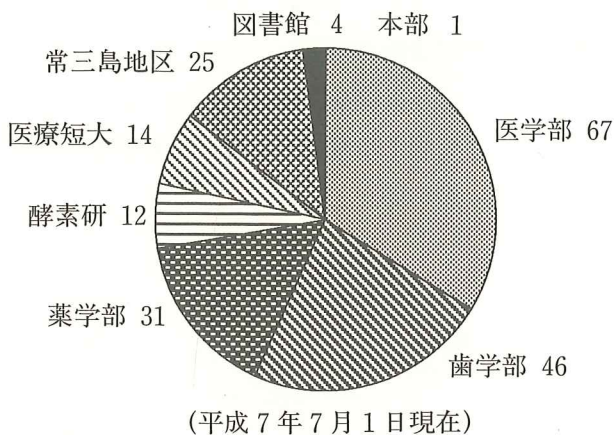


図2 PC98系, IBM系による検索件数 (1994.11-1995.6)

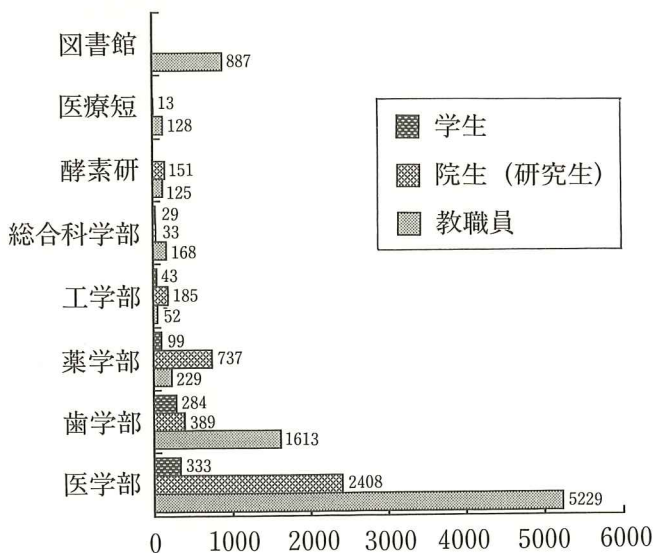
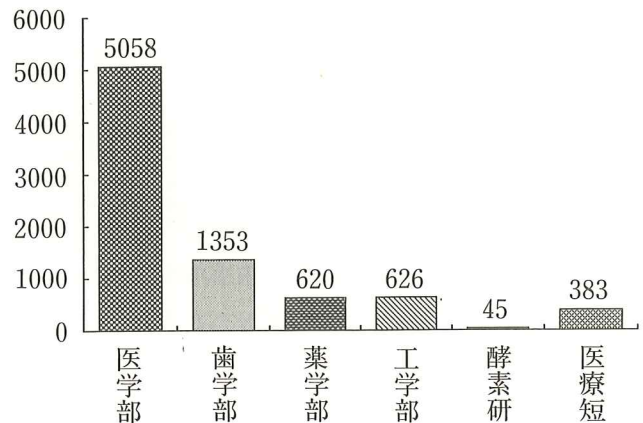


図3 Macintoshによる検索件数 (1994.11-1995.6)



ここでは、全学部、部局に開放されているMEDLINEについての統計を報告します。MEDLINEがスタンドアロンでサービスされていた当初は、一日平均3.5人しか利用しませんでした。チェンジャーを導入後は、6.8人から9.5人に増加し、現在は、100人の利用者がいます。MEDLINEは、医学、歯学、薬学、看護学の文献を主体としたCD-ROMですが、それでも、図1のように医学部、歯学部ばかりでなく全学部から利用登録されています。まだこれからも増加されると思われます。

図2は、PC98, IBM, DOS/V パソコンによる一年間の検索状況を示しています。

図3は、Macintoshによる検索状況を示していますが、学部別統計だけになっています。そこで、身分別統計は、図2を参照しますと、教職員は、64.2%、大学院生や研究生(専攻生)は、29.8%、学部学生は6%の比率で利用していることとなります。

学部別統計では、図2と3を合わせますと医学部が61.4%、歯学部が17.1%、薬学部が7.9%等の比率で利用してしています。これは、CD-ROM資料の内容によるためと思われます。全学部の利用者が等分に利用できるような資料を導入して、利用度を高めて行こうと計画しています。そのために、Current Contents 全分野の導入を検討しています。マルチメディアの時代にふさわしいサービスをご期待ください。

附属図書館運営委員会

第1回

日時 平成7年4月24日(月) 15時10分から
 場所 附属図書館会議室
 議題 1 平成7年度事業計画(案)について
 2 平成8年度概算要求事項(案)について
 3 附属図書館長候補者の選考について

第2回

日時 平成7年5月22日(月) 15時10分から
 場所 附属図書館会議室
 議題 平成7年度附属図書館運営費所要額(案)について

第3回

日時 平成7年6月5日(月) 15時10分から
 場所 附属図書館会議室
 議題 附属図書館長の選出について

第4回

日時 平成7年6月26日(月) 15時10分から
 場所 附属図書館会議室
 議題 1 分館長候補者の選考について
 2 平成7年度学生用図書購入費配分(案)について

人 事 往 来

	氏 名	新 官 職	旧 官 職	発 令
配置換	槌谷直美	歯学部総務課人事係	総務係	平成7.4.1
"	吉崎賞美	総務係	庶務部人事課任用係	"
退職	藤井トシ子		学術情報係	平成7.6.30
採用	清重潤子	学術情報係		平成7.7.1
任期満了	井上秀夫		図書館長	平成7.7.31
"	森田雄介		蔵本分館長	"
新任	青山吉隆	図書館長		平成7.8.1
"	上村修三郎	蔵本分館長		"

編集後記

本年度から、「すだち」は年3回発行となりました。また、本号から、読みやすさを目指して、紙面を白からクリーム色に変え、2段組にしました。利用者の皆様のご意見をお待ちしています。

編集委員会：委員長・青山吉隆 委員・宍戸，増田，隅田，小倉，岡田，折原

発行：徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)56-7584 内線(6111)

FAX 附属図書館(本館)(0886)55-9593 蔵本分館(0886)33-2950